

英語の予習のしかた

開倫塾

塾長 林 明夫

おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。

「二足のわらじを履く」という言葉があります。先日東京のキヨイホールで行われたテノールとソプラノ歌手のコンサートを聴きに行ってきました。テノールの方は鹿児島大学の医学部の先生で、一緒に歌ったソプラノの方は、大学の声楽の先生でした。どちらかという、二足のわらじを履いている医学部の先生の歌のほうが非常に感銘深かったと思います。医学部の先生は1年に数回しかステージに立ちませんから、とても気持ちが入り、この日にかけるという感じで迫力満点でした。素人の方が歌う場合とプロの方が歌う場合とではいろいろな違いがあると思うのですが、この舞台にかけるという意気込みは、どちらかといえば素人の方のほうがあったような気がします。そういう意味で、素人の方が二足のわらじを履きながら本業の他に趣味などいろいろなことをやるのは素晴らしいことだと思います。

山本潤子さんという歌手の歌をよく聴きます。山本さんは、何年かに1度くらいしかコンサートを行ういませんが、そのコンサートは素晴らしいです。ワンマンショーをよく行う歌手の方もいますが、山本さんはあまりしません。1回1回のワンマンショーで一所懸命歌いますので、非常に心を打たれます。コンサートの数が少ないからといって感動がうすいとは限りません。たくさんやっているからといって素晴らしいとも限りません。ですから、二足のわらじを履くよさをお考えいただければと思います。

これからは、60歳、70歳過ぎて1度就業を終わられた方の中で、100歳を越えるまで生きられる方が相当いらっしゃると思います。ですから、若いうちから二足のわらじを履いておき、60・70歳を過ぎたら二足目のほうでまた素晴らしい人生を送るというのも一つの生き方だと思います。きんさんぎんさんのように、100歳過ぎてからマスメディアにデビューするのは最高の人生ですが、それはなかなか大変です。60・70歳過ぎてデビューするのも素晴らしいと思います。

さて、本題に入り、英語の予習のしかたについてお話します。語学の勉強は、学校の授業をエンディングというか最終的なものにしたほうがよいというのが私の考えです。学校の授業を聞いてそこから勉強をスタートするのも素晴らしいやり方だと思いますが、そうすると復習やその他やいろいろあって勉強が挫折することが多いです。できれば予習を十分して、わからないところをはっきりさせてから授業に臨むことを、語学の場合にもお勧めいたします。

予習はどのようにしたらよいかというと、まずは教科書をよく読んで何が書いてあるかをおおざっぱに掴んで下さい。次に、よく読めない単語や意味のわからない単語はどのように読み、どのような意味なのかを考えながら、2回目を読んで下さい。それでもわからない場合は、1つのパーグラフと

どうか1つの章でこれさえわかればありがたいという単語だけを辞書で調べ、それを繰り返すというやり方、つまり大事なところから調べていって前後の関係から意味を類推するというのが、一番よいやり方だと思います。

辞書をゆっくりゆっくり引きながら、わからないところから調べていただきたいと思います。読めない単語は、発音記号を辞書できちんと調べて、その通りに読んでみる。そのような訓練も大事であると思います。それを予習でやるのです。それができるようになったら、書けなそうな単語を探して、予習の段階で書く練習をするのも大事です。教科書をきれいな発音で読んでいる CD やテープが出ていますので、それを買って、教科書を正しい発音で読めるような練習をするのもよいです。だいたいの意味を把握し、その中でよくわからないところをはっきりさせて授業に臨むのが一番よいです。つまり、予習で、意味や発音を辞書を使って調べ、また、書く練習をして、わからないことだけを残して授業に臨むというのが一番大事だということです。ですから、授業はフニッシュングになるのです。エンディングあるいはクロージングといいますかこれでおしまいという段階で授業に臨むと素晴らしく授業も役立つと思います。

もちろん、問題練習も必要です。1問ずつ全部解きながら、問題文も正しく読めるようにして、わからない単語があったら意味を調べ、書けない単語があったら書く練習をして覚えていく。このように、すべて調べ尽くし勉強し尽くして最後に授業に臨むと素晴らしい勉強ができます。是非やってみてください。

最後に、毎回申し上げて恐縮ですが、栃木県には素晴らしい温泉が山ほどあるにもかかわらず、県内の観光地は多重債務問題で非常に苦しんでいる所が多いです。ですから、県民の皆さんは、日帰りでもよいですから、助けると思って1か月に1回くらいは県内の温泉に行ってみてください。私もできるかぎり行きます。この前は、日光、鬼怒川、川治の話をしました。塩原温泉も素晴らしいですね。その奥の板室温泉も、那須温泉も素晴らしい。

栃木県の経済再生をどうするかということの1つに温泉地の再生がありますので、栃木県民の方はドライブがてら、あるいは体を休めて英気を養うということで、栃木県内の温泉に1か月に1回、たとえ日帰りでもよいですから行ってあげてください。200万人が行けば温泉地が必ず甦りますので、よろしく願いいたします。